

令和4年9月15日(木)
16:00~17:00
大富中学校多目的室

1 開会のことば(教務)

2 委員長(学校長)あいさつ

3 報告

(1) 定期健康診断の結果について(養護教諭)

- 身長・体重は全国平均。
- 女子の1.0未満者が少ない。
- むし歯なし(すべて健康な歯)の割合が、市平均を上回っている。
- 要観察歯(CO)保有者が多いことは課題。
- △歯石、歯肉とも要観察生徒は多いが、昨年度より改善傾向にある。

(2) 体育経営・体力テスト結果からについて(体育主任)

- 学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアルに基づき、以下のポイントで体育経営を行っている。
 - ・「密集」「接触」を避け、個人のできる領域・種目を、状況を見て実施内容としている。
 - ・各自の体力に合わせてできる領域・種目を学習内容とし、徐々に運動量・負荷を与えていくよう計画している。
 - ・マスクは外して運動させるようにした。
 - ・衛生管理マニュアルに則り、水泳を実施した。
 - ・領域・種目、学習内容は全て学習指導要領に示されるものであり、年間を通して履修させる。
- BMI平均指数は、昨年比「痩せ」の割合が減少。
- △学年内評価(個人内評価)を重視する。⇒学習課題の個別化をさらに推進し、全国平均にとらわれず、個人の伸びを評価していく。
 - ※昨年度比BMI指数の改善から、今後も「個」に視点をあて、養護教諭と連携した指導をしていく。

(3) 生活アンケートについて(養護教諭)

- 生徒自身が感じている生活課題
 - 第1位 学習時間が短い
 - 第2位 You Tube 視聴時間が長い
 - 第3位 寝る時間が遅い
 - 第4位 ゲームの時間が長い
 - 第5位 運動不足
- ☆この結果をみて、生徒会・厚生委員会が感じたこと・考えたこと(厚生委員長)
 - ・健康課題と感じている項目が、全て関連性がある。
 - ・1位~5位以外の項目で「朝食を食べない時がある」や「ながら勉強」もそれぞれが影響し合っていると感じた。
 - ・自分自身の自己決定と意識が重要。
 - ・夏休み明けにアンケートを実施したことが影響したか。

☆具体的な考えやアイデア（厚生委員長）

〈学習時間が短い〉

- ・学年・学校全体で取り組みを呼びかけるのはどうか。
- ・テスト前はゲーム禁止に取り組む。
- ・勉強してからゲームをする。（順番を自分で決める）
- ・ゲームや動画視聴の時間と学習時間を同じにするように、自分で決める。
- ・更にメディアコントロールに取り組むべき。
- ・3年生は学校で放課後学習会をしているので、その分、家で学習する人が減り、YouTube やゲーム時間が増え、寝る時間が遅いと感じているかもしれない。

〈YouTube 等の動画視聴時間が長い〉

- ・タイマーで時間を決める。

〈寝る時間が遅い〉

- ・勉強は早い時間に取り組む。
- ・中学生は身体の成長に睡眠が関係していることをもっと意識した方がよい。

〈ゲームの時間が長い〉

- ・タイマーで時間を決めてやる。 ・回数を決める。 ・脳トレゲームをする。

〈運動不足〉

- ・家でも体を動かせる何かがあると、運動不足も改善するし、YouTube やゲームの時間も減るのではないか。
- ・友達を誘って外で遊ぶ。
- ・3年生は部活動を引退し、運動の機会が少なくなったと思う。昼休み時間に体育館で体を動かすことも大切。

☆今後の取り組み（生徒会長）

今回出された課題や、それに対する改善策やアイデアを生徒会活動に少しでも取り入れ、さらに次の生徒会執行部に引き継ぎたいと考えている。

(4) 質疑・応答

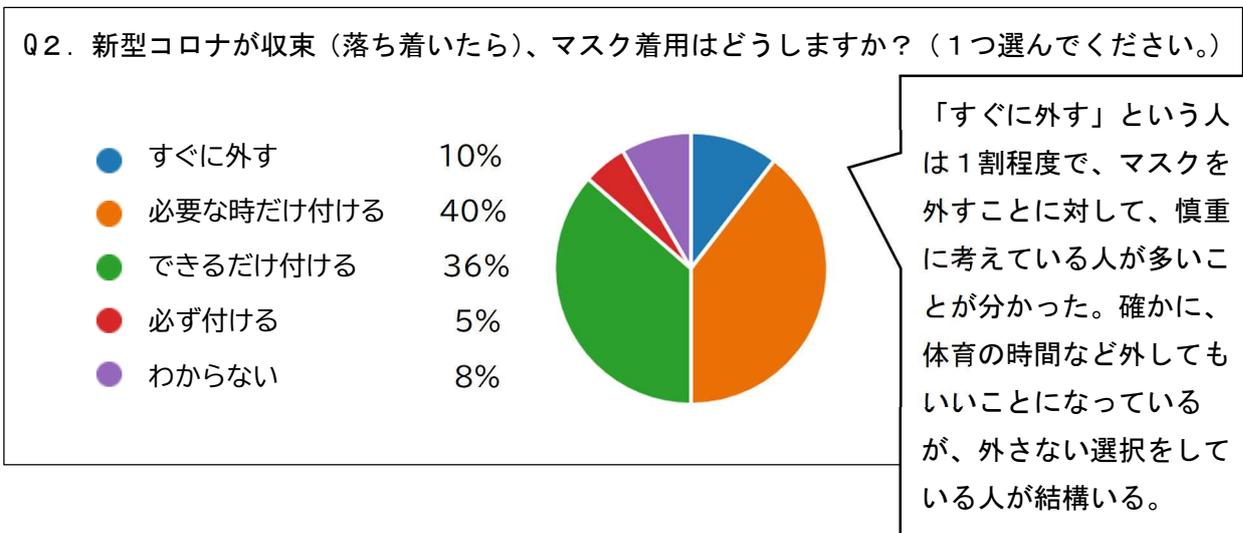
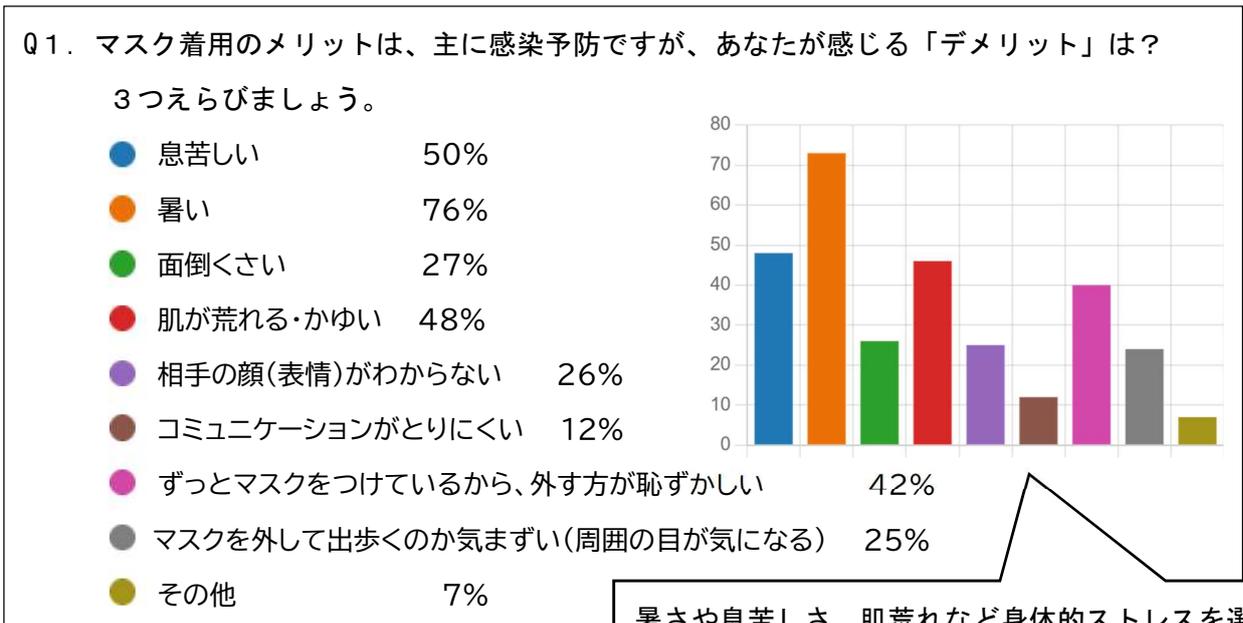
- ①児童生徒の「肥満傾向」が課題となる中、BMI 指数による「痩せ」の割合が多かったことに驚いた。（大富小養護教諭）
⇒給食の残さいが昨年多かったが、本年度は改善している。毎年、思春期の問題として「痩せること」への意識は働く。食べることへの必要感を持たせる食育教育を地道にしていきたい。（体育主任）
- ②・アンケート結果の通り。学習しようと親が言うことより、学習することの必要性を自分自身が感じるよう、生徒会で対策を立てることが良い。（PTA副会長）
・家では、自分の子供に「諭す」程度はできるが、最後は自分で学習することの必要性に気付いてほしい。（PTA健康安全指導部）
- ③睡眠時間が短いことへの「デメリット」について、中学生であれば、客観データをもとに、自分で考えられると思う。そんな考える機会が必要と思う。
⇒学級活動の時間に、データを基にして、自らの生活を振り返る授業を仕組むよう、実践していく。（教務主任）

4 協議

<テーマ> ウイズコロナ・アフターコロナを目指して
～コロナを知る子どもたちのこれからをともに考える～

ねらい 感染予防対策を優先した生活を送ってきたが、今年度に入り慎重ながらもコロナ前の生活に近づいて来ている部分もある。その中で、感染予防の大きな対策の一つである「マスク着用」に焦点を当て、現在とこれからの子どもの「健康行動」と「メンタルヘルス」に着目し、様々な立場の方々のご意見をお伺いしたい。

① 「マスク着用」についての意識調査結果について（厚生委員会）



このアンケート結果を見て、皆さんはどのように感じましたか？

＜委員の感想・意見等＞

- ・コロナが収束しても「できるだけ身に付ける」の割合が高いことは、いまだ「不安」が残っているという結果。
- ・今回のテーマを考えると、大事なことは、自分自身の健康管理とは何かを、中学生として、また家庭、学校として意識を持ち続けること。また感染したことを想定して事前のシミュレーションしておくこと。
- ・マスクの着用により、片頭痛の人は頭の血管が拡がり悪化することがあるので、注意が必要。
- ・相手の表情を読み、コミュニケーションを取ることは社会生活で重要。集団生活では、必要な時だけマスクを付けて、コミュニケーション能力を得てほしい。
- ・人との関わりという観点からすれば、完全にマスク着用の必要がなくなった場合には、是非マスクなしの笑顔で関係性を築いて行ってほしい。
- ・生徒さんたちの感染予防の意識が高いことに感心し、学校での指導に感謝したい。
- ・中学生は思春期の時期とも重なり、マスクを外すことに戸惑いが生まれていると思う。
- ・一度身に着けた生活習慣を変えることは難しく、時間はかかると思う。外せるときに外す意識を持つべきである。

5 ご指導・ご助言

＜学校医より＞

- ・診察をしていて、受け答えがしっかりする等、生徒の皆さんの成長が感じられた。
- ・コロナ禍中、学校内での感染拡大等、大きな事態に発展していないことから、これからも、防止策に尽力いただきたい。
- ・これから、必ず新型コロナウイルス感染が沈静化する薬の開発など進歩がある。それまで「シミュレーション」することで、どのようにすることが感染拡大につながるか等、対策を立てる力をつけてほしい。コロナ禍において、自分事として考えるメンタル面の力をつけることが大切。

＜学校歯科医より＞

- ・要観察歯（C0）とは、むし歯の一步手前。家庭と学校とで管理すれば、むし歯への移行を止められる。歯科検診結果のお知らせが学校から届いたら、早く受診し対応してむし歯を阻止することが大切。この予防管理も、歯科医院では医療保険の対象となっているので周知したい。
- ・マスクの着用は、息苦しさから口呼吸を招くことが多く、口呼吸→口の乾燥→歯肉炎→むし歯という負のサイクルになることがあり注意が必要である。

＜学校薬剤師より＞

- ・湿布剤には、使用する上で十分注意が必要な種類がある。ケトプロフェンという成分を含む「モーラスパップ」は光線過敏症を引き起こすことがあり、剥がした後も4週間は光に当てないようにという注意点がある。例えば祖父母が医療機関で処方された湿布薬を安易に使用しないなどの注意が必要である。

6 閉会のことば（教務）